

網走地区公式競技記録員 養成講習会テキスト

網走社会人サッカー連盟

1, 公式競技記録員の心得

- ① 大会ごとに定められたタイムテーブルは関わる全ての人が競技を円滑に進行させなければならない中、公式競技記録員が担当する業務は「時間」に関わる事項が重要な要素を占めることから、時間にルーズな印象を与えてしまっては記録の正確性に疑問を持たれかねない場合もありますので、記録員として特に時間を厳守する態度が求められます。
- ② 公式競技記録員として常に公平な立場を保持することを心掛け、誤解を招くような軽率な言動や行動は厳に慎み、且つ業務中は常に所在を明らかにし、勝手に持ち場を離れることが無いようにしましょう。

2, 業務の流れ

(1) 試合開始前

- ① マッチコーディネーションミーティング（キックオフ 60 分前）※1 部リーグ
 - ・ 両チームよりメンバー表の提出 ※1 部リーグ
 - ・ MC 等によりメンバー表の確認 ※1 部リーグ
 - ・ 記録員がメンバー表を受領
 - ・ 記録員が記録要しに試合前に記入すべき箇所を記入
 - ・ 必要事項の記入と用具準備を済ませて記録席で待機（キックオフ 30 分前目途）

(2) 試合中

① 前半

- ・ 前半の記録記入

② ハーフタイム

- ・ 気温と湿度の測定
- ・ 前半の警告者と退場者を主審に確認
- ・ 前半の記録確認及び必要に応じて修正
- ・ ハーフタイムでの交替選手の確認

③ 後半

- ・ 後半の記録記入
- ・ 観客数の確認（運営委員長へ確認）

④ 試合終了後

- ・ 後半の警告者と退場者を主審に確認
- ・ 記録の集計と確認
- ・ 主審・MC 等のサイン受領
- ・ 運営委員長へ完成した記録用紙を提出

3, 記録員が用意すべき用具等

- ① 記録用紙・バインダー（本部席に常置）
- ② 鉛筆・消しゴム・メモ用紙（記録は訂正が必要な場合がある為、必ず鉛筆で記入する事）
- ③ ボールペン（主審・MC・監督のサインのみ必ずボールペンで記入してもらう事）
- ④ ストップウォッチ（本部席に常置、出来る限り 2 個が望ましい）

- ⑤ 温湿度計（運営側で準備され次第活用）

4, 記録の記載方法

① 大会名

- ・ 「網走社会人サッカーリーグ ○部 第○節」と正式な名称で記入する。

② 天候

- ・ 晴れ、曇り、雨、雪、等で記入する。
- ・ 試合中に天候が変化した場合は、晴れのち曇りや曇り時々雨等へ訂正する。

③ 観衆

- ・ 試合の後半に運営委員長へ確認し人数を記載する。

④ 記録員の氏名

- ・ 主たる記録員の氏名をフルネームで記入する。

⑤ 会場名

- ・ 「北見モイワスポーツワールド A 面」など、正式な名称を記入する。

⑥ フィールドの仕様

- ・ 天然芝、人工芝、土 等で記入する。

⑦ 気温と湿度

- ・ ハーフタイムに設置された温湿度計を確認し温度は小数点第一位まで記入する。

※ 運営側で準備され次第活用

⑧ 風

- ・ 無風：風が全く無い状態
- ・ 弱風：旗が少しはためく状態
- ・ 中風：弱風と強風の中間の状態
- ・ 強風：旗が強くはためく状態（ボールの動きに影響を及ぼす状態）

⑨ ピッチの状態（天然芝の場合はハーフタイムに状態を確認して記入）

- ・ 全面良芝：芝がピッチ全体を覆っている
- ・ 良 芝：土が露出している部分がある
- ・ 不 良：全体の 20%以上で土が露出している

⑩ 開催日

- ・ 開催日を記載し、()には曜日を記入する。

⑪ キックオフ

- ・ キックオフが行われた正確な時刻を記入する。
- ・ 前半にキックオフを行ったチームのチーム名欄の「KickOff」を○で囲む。

⑫ 審判名

- ・ 審判氏名を主審・副審 A1・副審 A2・第 4 の審判の順にフルネームで記入する。

⑬ チーム名及び得点

- ・ リーグ登録書に記載された正式名称で記入する。
- ・ 左側にホームゲーム扱いとなるチーム名を記入する。
- ・ チーム名同士の間にある括弧には前半と後半それぞれの得点を記載する。
- ・ 前後半合計の点数を括弧の外側に記載する。

⑭ 選手名・背番号・位置

- ・ チームより提出を受けたメンバー表を基に記入する。
- ・ 選手名は必ずフルネームで記載する。
- ・ メンバー表の氏名等が不明瞭な場合は必ず当該チームへ確認する。
- ・ キャプテンは背番号を○で囲み、メンバー表に無い場合は当該チームへ確認する。
- ・ 位置は GK、DF、MF、FW の順で記入し、カギ括弧で位置を括る。
- ・ サブメンバーの位置も同じ順番で記入する。

⑮ シュート数

- ・ シュートと判断される基準を満たしている数を記入（後述）
- ・ 記入記号は／を用いて記入する。
- ・ 1本～4本までは／／／／と記入し、5本目は左記の4本に串刺しするように＼を用いて／／／／と記入し、6本目からは1本目と同様に記入し、5本で集約を続ける。
- ・ ゴールが決まったシュートには／の頭に○を付ける。
- ・ 試合終了後、シュート数合計を下欄に記入する。

⑯ 交替

- ・ 退場する選手の【時間】の欄へ交替した時間（交替出場する選手がピッチに入った時間）を記入する。
- ・ 出場する選手の【選手】の欄へ退場する選手の背番号を記入する。
- ・ サブメンバー選手の【時間】の欄は、途中出場選手が再度交替した場合の時間を記入する。
- ・ ハーフタイムでの交替時間は「HT」と記入する。

⑰ ゴールキック・コーナーキック・直接 FK・間接 FK・間接 FK (Offside)

- ・ シュートと同様に／を用いて前後半に分けて記入し、合計欄に数字を記入する。
- ・ 間接 FK (Offside) は認定され間接 FK となった数を守備側チームへ記入する。

⑱ 警告退場

- ・ 時間、背番号、氏名の順番で記入し、主審へ最終確認し必要に応じて正をする。

※ 55分 ⑨ 網走太郎

○ 警告種類

反スポーツ的行為
ラフプレー
異議
繰り返しの違反
遅延行為
距離不足

○ 退場種類

著しく不正なプレー
乱暴な行為
つば吐き
得点機会阻止(手)
得点機会阻止(他)
侮辱

⑱ 得点経過

- ・ 得点経過は記入を優先すると、試合から目を逸らしてしまい試合状況の記録を取りこぼしてしまう事もある為、メモ等を用いて概略等を仮記録し、ハーフタイム等にて記録用紙に正確な記載をするほうが良い。
- ※ 得点経過の記入方法は、別途詳細に解説します。

⑳ 試合に関する時間

- ・ キックオフは予定時刻ではなく、実際にキックオフが行われた時刻を記入する。
※ 9:59:59 までは 9:59 キックオフ
- ・ その他の経過時間は全て切り上げて記入する。
※ 前半 10 秒 → 1 分 ・ 前半 45 分 15 秒 → 45 分+1 分
※ 後半 20 秒 → 46 分 ・ 後半 46 分 32 秒 → 90 分+2 分
- ・ アディショナルタイムは「+〇分」と記載する。
- ・ ハーフタイムは「HT」と記載する。
- ・ 試合時間については、秒数まで記載して合計時間も記入する。

5, 記録の基準

① シュートとは

- ・ シュートとは「攻撃側チームの選手が、直接得点をする事を目的としてボールを意図的にプレーすること」を言いますが、ゴールから大きく外れているシュートを本数と計上した場合、その記録と実際の試合内容の印象に差が出てしまう事から基準を明確にし、実際の試合内容に沿った記録をする必要があります。

② シュートの基準

- ・ 近距離 (ペナルティーエリア内)の場合
～ シュートは左右のゴールポストから **5.5m** 程度以内、ゴールバーの上方 **2.5m** 程度に飛んだものをシュートと認定する。
※ 参考基準：左右はゴールエリアの内側まで、上方はゴールの上にゴール 1 個
- ・ 遠距離 (ペナルティーエリア内)の場合
～ からのシュートは左右のゴールポストから **11m** 程度以内、ゴールバーの上方 **5m** 程度に飛んだものをシュートと認定する。
※ 参考基準：左右はゴールエリアとペナルティーエリアの間まで、上方はゴールの上にゴール 2 個
- ・ 角度のない場所からのシュートの場合
～ ボールにしっかりとした勢いがあるか否かを判断し、コーナーアーク付近からはゴールポストやゴールバーに直接当たる、もしくは、**GK** や **DF** が防がなければ明らかにゴールする場合はシュートと認定する。
- ・ 守備側フィールドプレーヤーがボールをブロックした場合
～ 原則としてシュートと判断しますが、シュートを打つ至近距離でのブロック、ロングシュートを **3m** 以内でブロックした場合はシュートとして認定しない。

- ・ GKが防いだ場合
 - ～ 前述に沿ってシュートとして認定しますが、**GK**が大きく前に出てプレーした場合は守備側フィールドプレーヤーと判断を同じとする。
- ・ オフサイドが関係する場合
 - ～ **A**選手がシュートをしてそのこぼれ球をオフサイドポジションにいた**B**選手がシュートした場合、**A**選手はシュートとして認定されますが、**B**選手はシュートとして認定しない。
- ・ シュートが守備側選手に当たってからゴールインした場合
 - ～ シュートの基準を満たしていればゴールの枠に飛んでいなくても攻撃側得点として認められる為、シュートとして認定されシュートの基準を満たしていなければオウンゴールとなる。
 - また、ゴールバーやゴールポストに跳ね返ったボールが守備側選手に当たりゴールインした時には、**GK**がプレーして当たった場合とフィールドプレーヤーに偶然に当たった場合は攻撃側シュートと得点、フィールドプレーヤーが意図的にプレーした結果ゴールインした場合はオウンゴールとなる。
- ・ 守備側オウンゴール以外で攻撃側に得点が認められた場合
 - ～ 最後にボールをプレーした選手に得点が認められ、結果としてシュートとして認定する。
- ・ 間接**FK**からの場合
 - ～ シュート基準を満たしていても、他の選手に触れていない場合はシュートとして認定しない。
 - しかし、攻撃側**A**選手のシュート性のボールが攻撃側**B**選手に触れてゴールインした場合、**B**選手のシュートとして認定する。
 - また、攻撃側**A**選手のシュート性のボールが守備側選手に触れてゴールインした場合は、オウンゴールとなる。

② 得点者

- ・ オウンゴール以外の最後にボールをプレーした攻撃側選手に記録される。

③ オウンゴール

- ・ 守備側選手が最後に触れ、且つ、攻撃側選手に得点が認められない場合に記録する。

④ 得点者の確認

- ・ 得点者が不明瞭な場合やオウンゴール等の疑義がある場合は、主審及び**MC**又は運営委員長へ確認し、最終的な判断を**MC**又は運営委員長において判断する。

⑤ アシストの基準

- ・ 得点に直接関係する直前のパスなどのプレーをした攻撃側プレーヤーへ記録する。
- ・ アシストを記録することが出来るプレーヤーは1名又は2名とする。
- ・ 得点者が長い距離を独走しシュートを決めた場合は独走に結びつくパスを出した

者に記録される。

- ・ コーナーキック、フリーキック、スローインからボールを受けた攻撃側選手が得点した場合、コーナーキック、フリーキック、スローインをした者に記録される。
- ・ パスが連続した結果として得点が生まれた場合、得点から近い2名のプレーヤーに記録出来る可能性がある。
- ・ ラストパスとなるボールをスルーした結果、得点に貢献した場合はラストパスを出した選手及び、スルーした選手にも記録される。
- ・ シュートしたボールがゴールバーやゴールポストに跳ね返り、他の攻撃側選手がシュートして得点が決まった場合は、最初にシュートした選手に記録される。
- ・ ペナルティーキックが失敗となり、跳ね返ってきたボールを他の選手がシュートして得点が決まった場合にはアシストは記録されない。

6、得点経過の記載方法

(1) 通常得点経過の記載順序

- ① プレーの始まった位置
- ② 選手の背番号
- ③ プレーの内容

(2) セットプレーからの得点経過の記載順序（ゴールキックやスローインを含む）

- ① プレーの始まった位置
- ② セットプレーの形式
- ③ 選手の背番号
- ④ プレーの内容

(3) プレーの始まった位置について

～ 相手ゴールに向かって「左」・「中央」・「右」の三分割で表記する。

- ・ 「左」 左側タッチラインから左側ペナルティーエリア縦ラインまでの間
- ・ 「右」 右側タッチラインから右側ペナルティーエリア縦ラインまでの間
- ・ 「中央」 上記左右の真ん中

(4) プレー記録に用いる主な略号

～	ドリブル
↑	浮き球
→	ゴロパス
S	シュート
H	ヘディング
HS	ヘディングシュート
×	混戦（互いに支配出来ていない状態から出てきたボールをプレーした場合）
こぼれ球	守備側の選手がボールキープをミスした球
直接 FK	直接フリーキック
間接 FK	間接フリーキック
PK	ペナルティーキック
CK	コーナーキック
GK	ゴールキック
OG	オウンゴール
スローイン	スローイン
ポスト	ゴールポストに跳ね返った球
バー	ゴールバーに跳ね返った球
カット	カットプレー（カットした選手の背番号の後に記入）
クリア	守備選手のクリアボール
相手 GK	守備側ゴールキーパー
相手 DF	守備側のフィールドプレイヤー

7. 記入例

- ① 10 番の選手が PK で得点した。

PK ⑩ S

得点者 10 番

※ PK の場合は位置を記録しなくても良い

- ② 右側コーナーキックを 10 番の選手が浮き球で蹴り、中央で 8 番の選手がヘディングシュートで得点した。

右 CK ⑩ ↑ 中央 ⑧ HS

得点者 8 番・アシスト 10 番

※ ライナー性の低い浮き球も ↑ として表記する。

- ③ 中央 10 番の選手がゴロの球で右側 6 番の選手にパスを出し、6 番の選手はドリブルで右側タッチラインを進み、中央の 11 番の選手へ浮き球のパスを出し、11 番の選手はトラップをしてドリブルをしてからシュートで得点をした。

中央 ⑩ → 右 ⑥ ～ ↑ 中央 ⑪ ～ S

得点者 11 番・アシスト 6 番

- ④ 左側タッチラインから 9 番の選手がスローイン、8 番の選手が左側で受け取ってドリブルして中央に持ち込みシュートで得点した。

左	スローイン	⑨	↑	⑧	～	中央	S
---	-------	---	---	---	---	----	---

得点者 8 番・アシスト 9 番

※ スローインも受け取ったのも左側と、続けて同じエリアの場合は最初のみ記入する

- ⑤ 右側から 3 番の選手が中央へ浮き球のパスを送ったが、攻撃側、守備側共にボールをキープすることが出来ず小競り合いの末、たまたま目の前にボールがこぼれてきた 10 番の選手がシュートで得点した。

右	③	↑	中央	×	⑩	S
---	---	---	----	---	---	---

得点者 10 番

※ 得点となる直前のプレーを味方選手が意図的に支配していると言えない為、3 番の選手にアシストは記録されない

- ⑥ 中央の位置から 9 番がシュートしてそのボールを GK がセービングしようとしてボールに触れたが、勢いに押されてそのままゴールインした。

中央	⑨	S
----	---	---

得点者 9 番

※ オウンゴールでは無い場合は相手 GK を記載しない。また、オウンゴールの場合には選手を特定する必要が無い為、GK であっても「相手 DF」と記載する。

- ⑦ 左側から 6 番の選手がドリブルで進み、中央の 7 番へ浮き球でパス、相手 GK がキャッチを試みたが、指先で触れた程度でボールへの軌道に影響は無く、7 番の選手にパスが通りシュートを決めた。

左	⑥	～	↑	中央	⑦	S
---	---	---	---	----	---	---

得点者 7 番・アシスト 6 番

※ GK はボールに触れたが、影響は無かった為に 6 番にアシストが認定される。

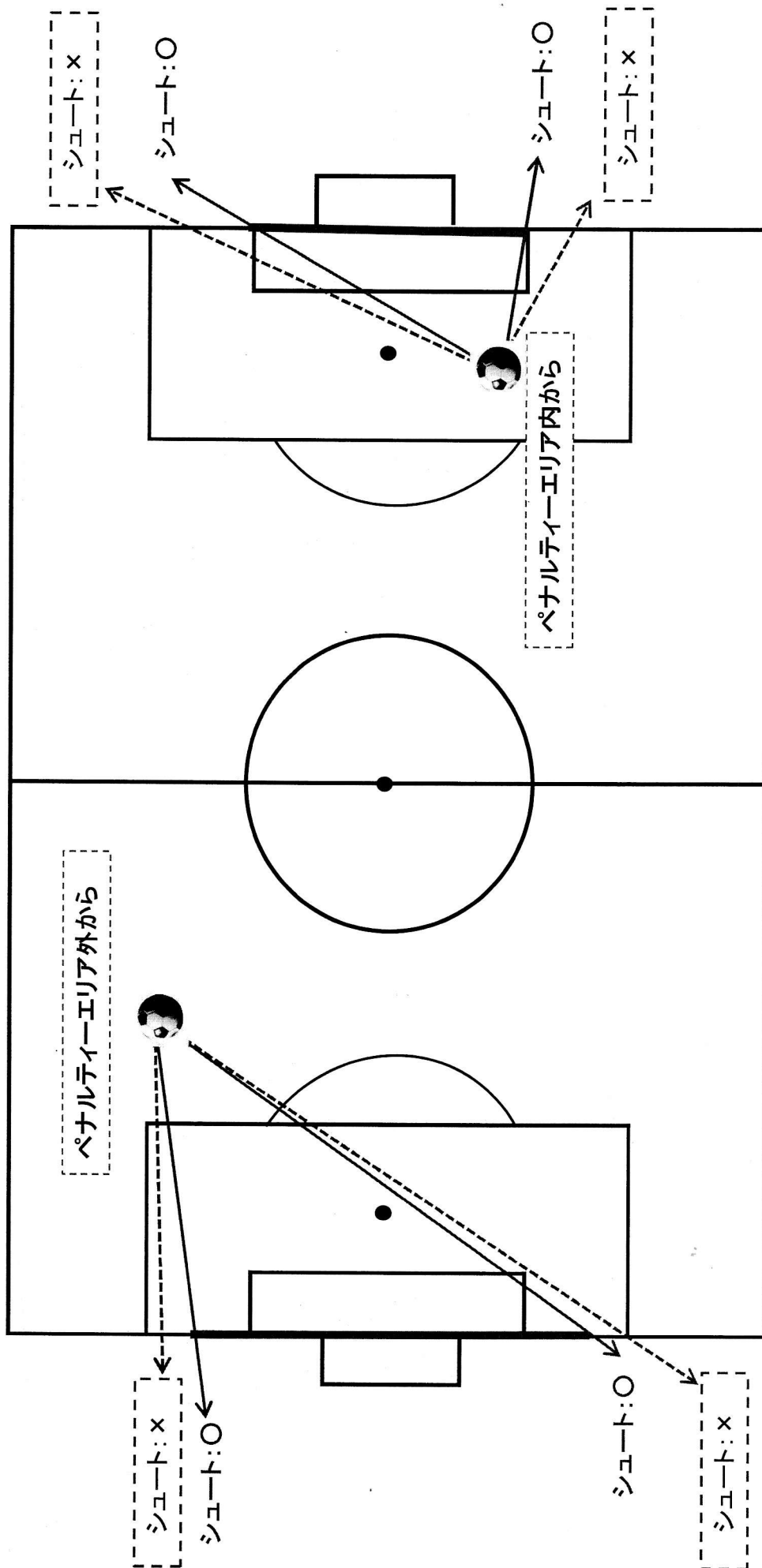
※ GK が触れた事によりボールの軌道が大きく変化し、たまたま 9 番の選手がシュートしゴールに至った場合は下記の通りとなり、6 番にアシストは認定されない。

加えて、もしも 7 番の選手が大きく軌道が変化したボールに対して移動し、ゴールを決めても 6 番のアシストは認定されない。

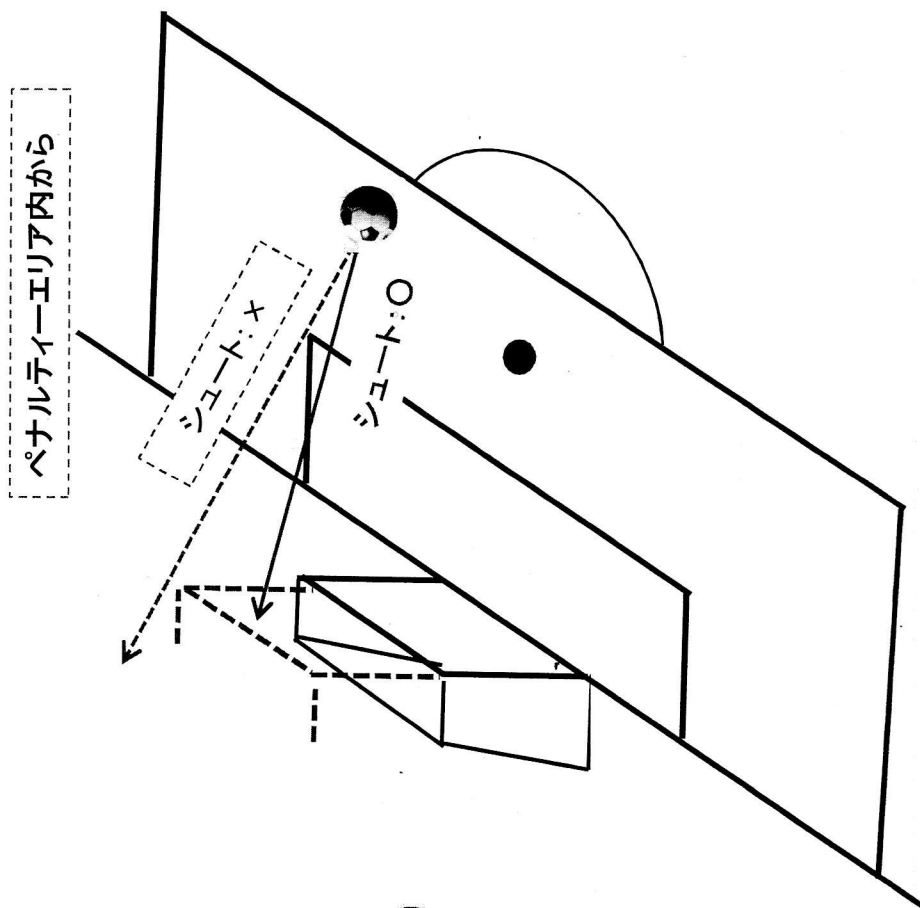
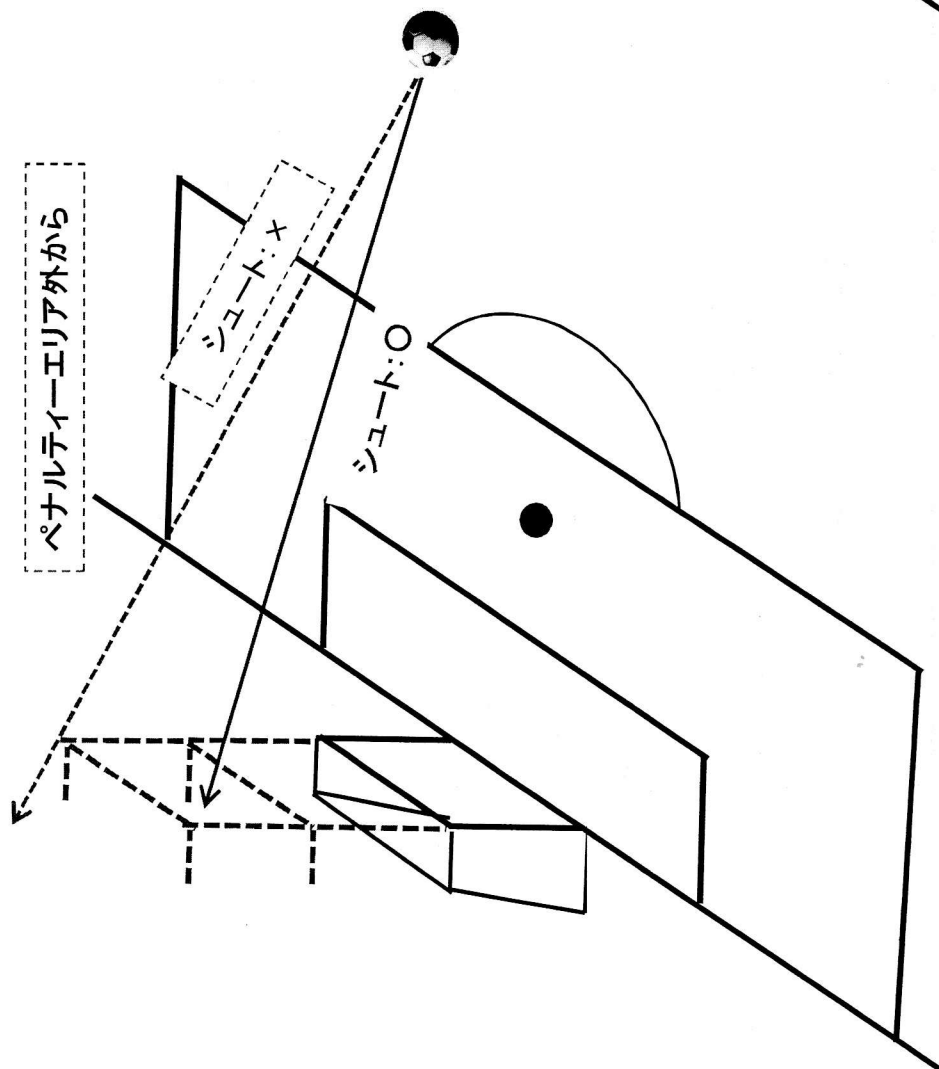
左	⑥	～	↑	中央	相手 GK	こぼれ球	⑨	S
---	---	---	---	----	-------	------	---	---

得点者 9 番

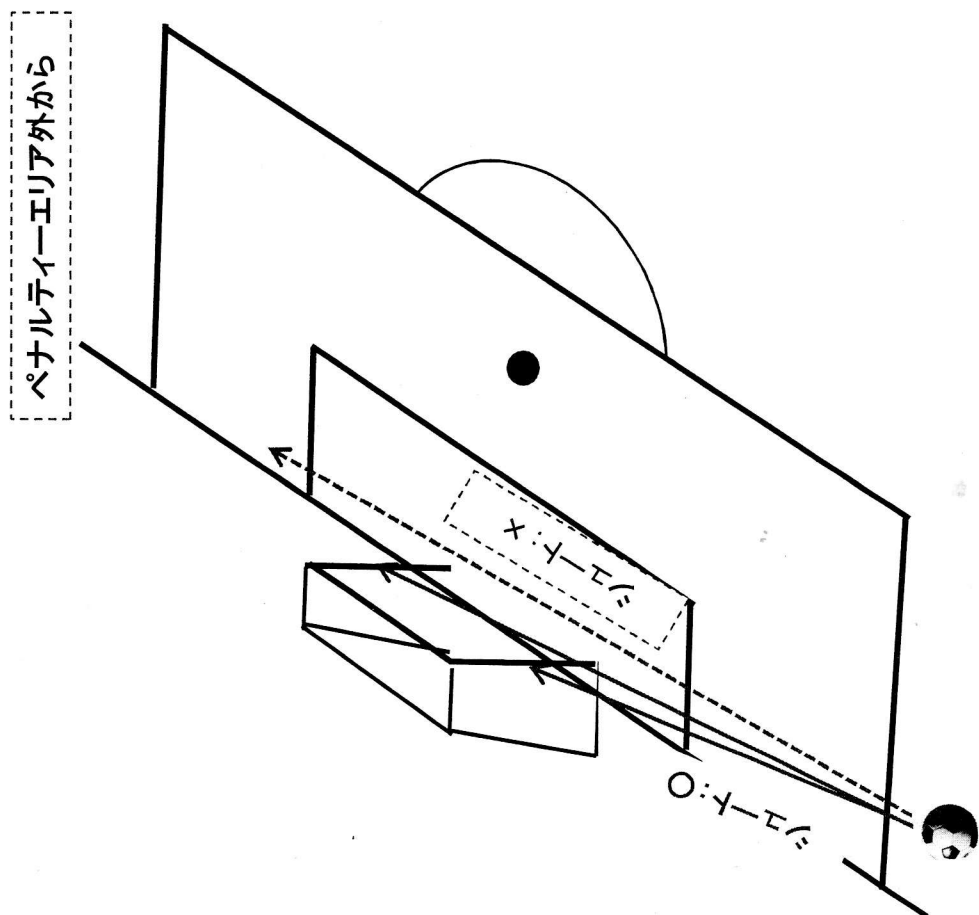
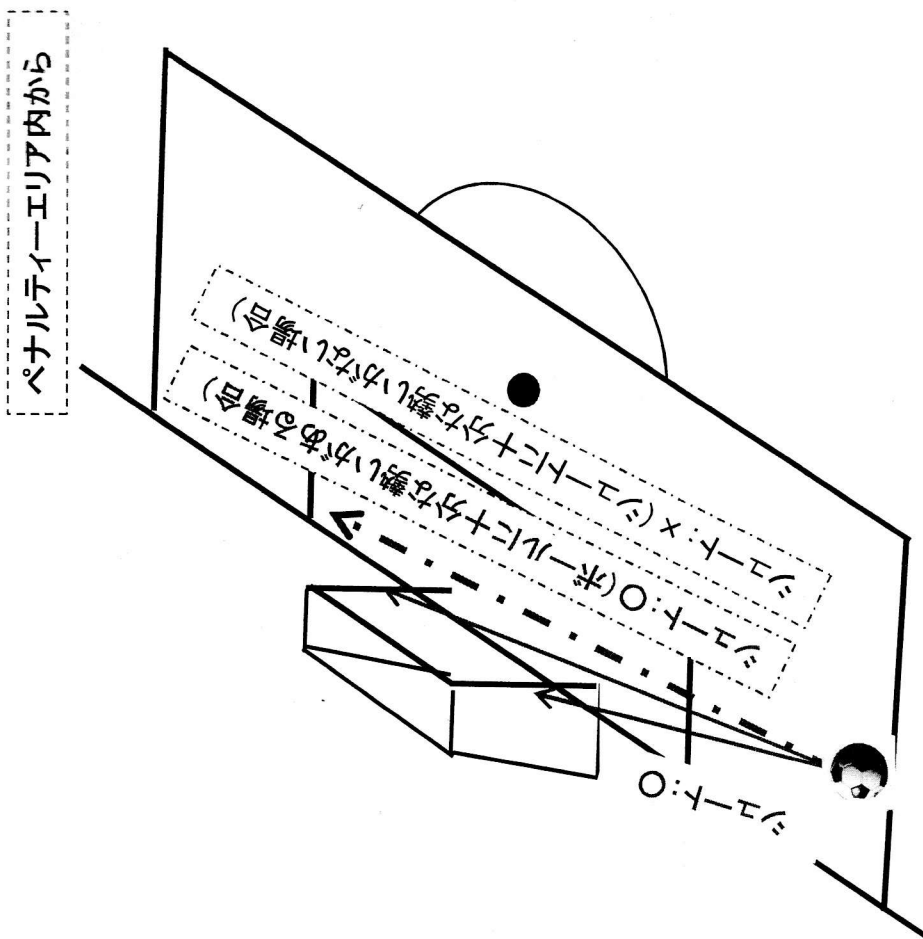
シュートに関して: 左右に外れた場合



シュートに関して:ゴールの上方に外れた場合



シュートに関して:角度のない場所からのシュート



得点経過記入例

1	右	15番	→	中	3番	～	→	10番	S		
2	左	10番	↑	中	3番	S	ポスト返し	10番	S		
3	左	7番	スローイン	3番	～	中	S	相手GK	こぼれ球	3番	S
4	中	7番	～	→	3番	スルー	10番	S			
5	PK	7番	S								
6	右	相手FP	→	7番	インターセプト	→	中	10番	～	S	
7	左	10番	→	7番	↑	中	15番	HS			
8	左	直接FK	10番	↑	中	15番	HS	相手GK	こぼれ球	3番	S
9	左	CK	7番	↑	中	15番	H	10番	S		
10	中	GK	↑	右	7番	～	中	→	10番	S	